

新型コロナウイルス感染症（疑い）妊婦さんの 当院での分娩取り扱いについて

2020年4月

東京女子医科大学八千代医療センター
母体胎児科・婦人科

新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、当院においても新型コロナウイルス感染症、あるいは同感染症の疑いを否定できない妊婦さんの分娩に対応することが求められております。現時点では新型コロナウイルス感染症は、重篤な呼吸器感染症に進展し、死亡に至る可能性のある病気です。しかしながら新型コロナウイルス感染症に対する確立した治療薬はなく、感染を予防することが非常に重要な病気です。当院には、悪性腫瘍などの持病治療のために免疫力の低下した（ウイルス感染を起こしやすい、感染した場合に症状が悪化しやすい）患者さんが数多く外来通院・入院しております。そのため、当院内での感染拡大を防ぐことは当院の責務となります。

当院で妊婦健診中の妊婦さんで、陣痛発来や破水などにより当院へ来院された際に新型コロナウイルス感染症あるいは同感染症の疑いを否定できないと診断された場合は、通常の分娩時よりもより厳重な感染予防対策を講じる必要があります。しかしながら、当院では感染防御のための隔離機能を備えた分娩室が設置されておられません。したがって、原則として、感染症妊婦を受け入れている松戸市立医療センター、成田日赤などへ母体搬送となります。しかしながら、それらが、隔離施設の満床など何らかの理由で受け入れができない場合は当院で分娩していただくこととなります。そのような場合、新型コロナウイルス感染症が確定されていない疑いの場合であっても、院内での感染予防の観点および経産道感染のリスク（経膈分娩した場合に児に感染するリスク）の有無が十分に証明されていない観点から分娩の進行状況や当院での医療体制によっては帝王切開術による分娩が望ましいと判断する可能性があります。

妊婦さん自身に発熱や肺炎症状がある場合は、胎児の感染症、低酸素血症の危険があるため、母体および胎児のために帝王切開を考慮します。また、全く症状がなく検査で陽性だった場合や、検査を実施したが検査結果が判明する前に陣痛が始まった際にも、分娩時の「いきみ」による院内感染のリスクがあるため（「いきみ」はウイルスを拡散しやすい行為とされています）、帝王切開での分娩を考慮します。さらに、夜間などの医療スタッフが少ない場合や、平日であっても分娩に比較的長い時間を要すると予想される場合などは、経膈分娩できる可能性が高いと判断したとしても、院内での感染拡大防御のために帝王切開術を選択することがあります。現在の検査体制では迅速な確定検査が困難であり、帝王切開した後、新型コロナウイルスの感染が結果的に否定される可能性もあります。

実際にこのような理由で帝王切開となる例は極めて稀であると想定されます。

また、短時間で分娩進行が期待される場合は慎重に感染予防しながら経膈分娩していただきます。

帝王切開術による分娩となった場合は、経膈分娩より出血量が多くなることもあり、入院期間が延長（通常術後 7 日間）します。また次回妊娠時の分娩方法も帝王切開術となります。感染防御を目的とする帝王切開を施行した場合、想定以上の不利益が当該妊婦さんに起きることのないよう、当院スタッフは最大限の配慮を致します。

今の社会情勢を考え、このような対応を行う可能性があることを妊婦さん・ご家族の皆様にご了承いただけると幸いです。実際に帝王切開とする場合には再度説明をいたしますが、ご不明な点がありましたら外来担当医へお問い合わせください。

現在当院では、分娩開始の徴候があり病院にご連絡いただいた際には、新型コロナウイルスに特徴的な症状について問診をさせて頂いております。また、来院時には体温測定をお願いしております。さらに、分娩の際には全員の方に感染症のスクリーニングとして採血をさせて頂いていることをご承知おきください。（採血によるスクリーニングは新型コロナウイルス感染症を確定するためのものではありません。）

また、来院時・入院時には、陣痛発来時を含め、マスク着用をお願いしております。医療スタッフ、同室の患者様と接する場合にはマスク着用が望ましいのですが、ご存知の通り、当院においてもマスクが不足しており、患者様にお渡しできないのが現状です。大変申し訳ありませんが、ご自身での準備をお願いいたします。ご家族様が来院される場合もマスク着用をお願いいたします。

最後に、社会的な大流行を鑑みると、今後入院時に無症状であった患者様や医療スタッフから不測の事態として、感染者が出てしまうことも想定されます。当院は周産期センターとしての役割があるため、病棟を閉鎖することにより、多くの患者様に不利益を与えてしまうため、できる限り閉鎖せずに存続させる必要があります。できる限りの感染対策を行い、無症状の患者様や医療スタッフからの感染拡大を防止するよう努めております。患者様には様々なご協力をいただくこととなりますが、ご理解ご協力の程、どうぞよろしくお願いいたします。

東京女子医科大学八千代医療センター
病院長 新井田達雄
副院長・周産期センター長 正岡直樹
母体胎児科科長 三谷 穰